



102

編集 知道会広報委員会
〒310-0011 水戸市三の丸3-10-1
茨城県立水戸第一高等学校内
発行人 稲葉節生
発行日 令和5年5月1日
通巻 第102号
HP www.chidokai.jp
メール chidokai_mito@chidokai.jp



〈目次〉

御厩新校長インタビュー	1
西野虎之介顧問ご逝去	3
一高だより	4
第72期第49回代議員会	6
地域・職域等知道会	6

みまや 御厩新校長インタビュー



みまや ゆうじ
御厩 祐司校長

1970年香川県生まれ。香川県立高松高等学校、京都大学卒業。文科省地域政策室長、内閣府参事官、東大研究推進部長、愛媛県教委保健スポーツ課長などを歴任。猫好き。車は運転しないが不便なため、最近自転車を買った。

今年の4月から校長になられた御厩先生にお話を伺った。御厩先生は、2021年に行われた茨城県の公募で選考され、昨年度は副校長を担当された。本インタビューは令和5年2月28日に知道会館にて実施した。

聞き手／内藤学（昭53卒）

昨年は副校長として赴任されて1年、水戸には慣れましたか？水戸の印象はいかがですか？

今の生活は、基本的に「金湯月来」で、4泊水戸、3泊東京の生活です。実は、駅と住まいと学校の往来が主なので、まだほぼ散策できていません。最初に水戸駅北口を出た時、予備校や塾が多いのにはビックリしました。

御厩校長の経歴について教えてください。

私は、ひとり親世帯で育ちました。かなり貧乏な家に育ったので、学生時代は部活もできずに、毎日アルバ

イトに明け暮れていました。そのころから、なぜ自分だけ文化祭にも出られず、野球応援にも行けず、部活もできず、これは世の中がおかしいのではないかと、これは革命的な変化が必要ではないかと思っていました。大学で経済学を学び卒業後、どんな家庭に生まれても質の高い教育を受けることができる、そういう社会を作っていきたいと思い、当時の文部省に入りました。その後、一番多くかかわったのは、経済的に恵まれない子供達への支援です。奨学金や私学助成金など、「教育の機会均等」関連ですね。

水戸一高への赴任が決まって考えてみますと、私の母校である香川県の高松高校は、同じように自由な校風でしたし、また、水戸市と高松市は関係が深かったりと、不思議な縁を感じています。

なぜ茨城県の校長先生に応募したのですか？

これも、教育の機会均等とつな

がります。文部科学省にいたので、茨城県でやろうとしている教育については聞いておりました。県下どこにいても都会に負けない中高一貫の教育が受けられるようにしよう、その理念に共感しました。一方で、受検の年齢が下がることとなります。小学生での受検ということは、親や塾に頼る状況となるおそれがあり、教育格差につながる可能性があります。この点を補いつつ、家庭環境によらず真に誰でも目指すことのできる学校としていきたいと考えています。この両輪がそろえば、全国教育改革のモデルとなるでしょう。

自分たちとは別世界の学校だ、などと最初から諦めてしまう子どもが出ないよう、福祉関係者とも連携して広報などに力を入れています。

※次ページに続く

赴任される前の水戸一高のイメージは？

東京大学で働いていた時もよく聞く学校名でしたし、役所の先輩にも卒業生がいっぱい、素晴らしい学校だと思っていました。ただ、歴史ある学校なので、保守的だろうな、新しいことをするのは難しいかもしれない、というイメージもありました。

一年間、副校長として赴任されてイメージは変わりましたか？

変わりましたね。堅い人ばかりではないし、変化も受け入れる、新しいことにチャレンジする人も多いと印象が変わりました。「変わり続けることが伝統だ」とおっしゃる方もおり、心強いです。

ひと昔前の水戸一高は、先生と生徒の距離が近かったと感じていますが、今も変わらないでしょうか？

はい、現在もそのような雰囲気があります。しかし、教員も多忙化しており、生徒に向き合う時間が思うように取れない場面もあります。また、中学校が併設になって校舎が手狭になり、生徒の相談に応じるスペースも不足しています。

そこで、4月から校長室はなくなってカウンセリング室にします。私は職員室の中に入るつもりで

す。私が知る限り、校長室をなくした学校は聞いたことがありませんが、職員とのコミュニケーションも円滑になるのではないかと考えています。

赴任後、先生方とはスムーズにコミュニケーションがとれましたか？

外部から公募で採用されましたが、私は教育界の出身ではあるので、民間出身の方よりもすんなり慣れることができたように思います。

附属中学生はどのような雰囲気ですか？

小学校の中でもリーダー的な人が集まってきているのか、みんなしっかりしている印象です。ただ、上に個性的な一高生が大量にいる中で、少し縮こまっている部分もあるかなと思います。4月には中学の生徒会も立ち上がることもあり、高校生と積極的に交流し、学校全体を盛り上げてほしいです。

先生のビジョンを聞かせてください。

めざす学校像は、長い歴史と伝統を活かしつつ、新たな挑戦と刺激に満ち(イノベーション)、個人・組織ともに健全で(バランス)、校内・校外の多様な主体が協力しながら運営していく(協働)、学

校です。この頭文字が「イバラキ」です。令和5年度からの取組みとして、これまでの海外派遣事業を拡大させた「米中派遣」の実施、中学・高校の枠を超えて異学年の生徒が交流する「+4学年活動」、浪人生のサポート組織「知道図南会」の設置などを始めます。また、中学1年生を対象に、水戸城や水戸一高のルーツを様々なテーマで探究してもらい、その結果をもとに校内ガイドツアーを開催してもらう予定です。知道会の方々にも機会をつくって成果を見ていただきたいと考えています。

新しい取組みを聞くことができ、楽しみです。最後に、知道会員にメッセージをお願いします。

卒業生から協力いただき、海外派遣等が成り立っています。より一層のご支援をお願い致します。

本日はありがとうございました。
ありがとうございました。



水戸一高「社会人インタビュー」

令和4年12月8日(木)、水戸一高において「社会人インタビュー」が行われました。この行事は医療・法曹・経営・研究職・公務員など様々な分野で活躍する水戸一高卒業生の中から10名を講師に迎え、お話を伺うものです。高校1年生全員が予め聴講希望ごとに各教室に分かれ、それぞれ講師から50分間の講義を聴いたあと休憩を挟んでインタビューを40分間行いました。インタビューでは各講師の高校・大学在学中の様子や進路選択のきっかけ、仕事での経験などを含め、時折笑いを交えながら活発に質疑応答をしている様子が見られました。

1年生の皆さんには社会の第一線で活躍している卒業生から生の声を聴くことができ、大変有意義な時間になったことと思います。

講師を務めていただいた10名の方々も、久しぶりの母校で生徒と交流され懐かしい気持ちになっていたようです。

今後とも知道会では学校の要請に応じて、この行事への協力を続けて参りたいと思います。

講師の皆様、お忙しい中を資料準備から当日の講演まで、ご協力をいただき誠にありがとうございました。

【講師】

経営コンサルタント

神永将行(平5卒)
金融・起業 栗原知也(平7卒)
出版 小川淳子(昭63卒)
研究職(理系) 中山智弘(昭62卒)
研究職(文系) 大谷基道(平元卒)
弁護士 藤田奈津子(平13卒)
医師 山口京子(平元卒)
公務員 河合信之(昭57卒)
公務員 宮川七重(平元卒)
I T 森 淳一(平7卒)



西野顧問 ご逝去

知道会顧問で平成12年から平成21年まで会長を務められた西野虎之介様（昭23卒）が令和4年11月29日に逝去されました（享年93）。西野様は常陽銀行頭取や水戸商工会議所会頭、県商工会議所連合会会長などの要職を歴任し、経済や文化など幅広い分野で県勢の発展に貢献されました。知道会では会長在任中に母校創立130周年記念事業を推進されたほか、長年にわたり会の発展と母校への継続的支援に取り組まれました。ご自身は戦中～戦後直下の激動の時代に水中・水戸一高に在学し、戦時中には学徒勤労動員に従事しながら学んだ経験をお持ちでした。平成28年には水戸芸術館で上演された音楽劇「夜のピクニック」の通し稽古に姿を見せられ、同級生であった故深作欣二氏の御子息で音楽劇の演出を担当した深作健太氏と固い握手を交わされたお姿が忘れられません。西野様の知道会へのこれまでのご尽力に深く感謝を申し上げますとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。



西野虎之介顧問



2016年9月16日 音楽劇「夜のピクニック」ゲネプロ公演
西野顧問と深作健太氏

写真提供：水戸芸術館（撮影：刑部アツシ）

令和4年知道会会員の集い 開催報告

令和4年11月12日（土）、水戸京成ホテルにおいて「知道会会員の集い」を開催しました。今年は平成3年卒・平成13年卒・平成23年卒を幹事学年に、当日は天気にも恵まれ約300名の参加申込みのもと、賑やかな会となりました。

代議員会の終了後、海外派遣事業に代わって今年3月に実施された「グローバルリーダープログラム」について生徒代表6名による報告があり、続いて講演会は綿引健氏（平3卒）の司会進行のもと磯前昌宏氏（平3卒）の「生き残れるのか？遠洋マグロ漁業」、高野友晴氏（平3卒）の「地元茨城・水戸に支えられて創る、古くて新しい納豆の世界」の講演2本が行われました。

懇親会は菊池克仁氏（平13卒）の司会により進行。稲葉会長（昭38卒）、高村学校長（昭56卒）の挨拶の後、長谷川淳三氏（昭23卒）の発声により乾杯、懇談となりました。

懇親会ではミュージカル女優として活躍中の三森千愛氏（平13卒）によるミニコンサートがアトラクションとして行われ、講演会の際に登場した「ねば〜る君」も懇親会場に現れてコンサートを盛り上げ、アトラクション終了後も参加者と写真撮影

するなどしました。

終盤では来年2月に開催予定の「東京知道会 同窓の集い」について幹事の平6卒メンバーから案内があり、幹事引継ぎでは今回の幹事学年から来年の幹事学年（平4・平14・平14卒）へ幹事の印である軍配が受け渡されました。

校歌は感染対策のため参加者一同が演奏に合わせて心の中で斉唱し、

幹事学年の平23卒の重藤恵氏の挨拶をもって閉会となりました。

マスク着用などの感染対策をしながらではありますが、3年ぶりに対面で懇親会も含めた会員の集いを開催できたことは誠に喜ばしく、会場内は終始、久しぶりに会う同級生や先輩後輩の姿を見つけた参加者の明るい笑顔と声に包まれていました。

次回は令和5年11月18日（土）水戸京成ホテルにて行います。皆様のご参加をお待ちしております。



写真協力：広報委員会、園部敬氏（平元卒）

退任のごあいさつ



前校長

高村 祐一

この度、4年間の職務を終え、退任いたしました。この間、併設型中高一貫教育校として附属中学校開設準備及び開校という新たな歴史の創造に携わり、そしてなにより進学実績の向上という県民や会員の皆様からの期待を強く感じながら、なんとか職責を全うすることができました。これまでに支援を賜りました、鬼澤前会長、稲葉会長をはじめ、全ての知道会会員の皆様に、心から感謝申し上げます。

教育現場では、度重なる自然災害やコロナパンデミックにより、さまざまな活動が制限を受けました。一方、国のGIGAスクール構想により一人一台端末が普及し、一気にICT教育の波が押し寄せました。本校の数々の伝統行事をどう継承していくのか、ICTを活用した学びの保障と学力向上をどう行っていくのか等、生徒及び教職員とともに試行錯誤したあつという間の4年間でした。様々な行動制限の中で可能な活動を模索する一高生の創造力と行動力、そして高い目標に向かって最後まで諦めずに学ぶ姿は、社会を牽引するリーダーとして将来活躍することを確信させてくれました。

今年は中学1年生から高校3年生まで6学年が揃う年となります。中高連携やその後の内進生と高入生の指導、探究活動や部活動の在り方等、学校では課題が山積しています。働き方改革により勤務時間外労働を厳しく指導される中、保護者や知道会会員の皆様のお力添えが欠かせない状況です。今後とも、母校の新たな歩みを温かく見守っていただきますとともに、なお一層のご支援とご協力をお願い申し上げ、退任の挨拶といたします。

令和5年度定期人事異動

次の方々が異動された。

1 退職（教科および在職年数）

高村 祐一（校長、4年）
県教育研修センターへ
飯岡 孝行（事務室長、2年）
太子清流高へ
島田 道昭（数学、9年）
竹園高へ
武士 敬一（理科、12年）
本校再任用
寺門 弘訓（理科、4年）
本校再任用
寺田 尚子（英語、4年）
本校非常勤
クラウドディア ワン（英語、1年）

2 転出

細貝 雅之（教頭、3年）
太子清流高校長
加藤 浩一（英語、11年）
勝田高へ
斉藤 健次（体育、6年）
竹園高へ
木戸 昭良（理科、4年）
本校非常勤
大塚 瑞恵（実講、13年）
緑岡高へ
中野 宏喜（国語、1年）
太田一高へ
大内 善晴（理科、4年）
緑岡高へ
飯村 郁（技術、1年）
国田義務教育学校へ
島崎 憲子（学校栄養職員、2年）
常陸太田市立太田小へ
田村 彩（事務、4年）
県立図書館へ

3 転入（学校名は前任校）

御厩 祐司（校長、本校副校長）
富澤 英士（教頭、水戸二高）
佐藤 総英（事務長、太田一高）
坪 雄太（理科、緑岡高）
ゴンザレス アンドレス ホセ
（英語、新規）
平山 昌徳（保体、新規）
綿引 利弘
（数学、並木中等教育）
浅野 玲子（英語、下妻二高）
二川 学
（技術、水戸市立第五中兼務）

伊藤 智美（実習助手、新規）
鹿志村加奈（栄養職員、新規）
大竹 彩乃（事務、常陸大宮土木）

附属中学校・水戸一高入試報告

附属中入試倍率

3.61倍（定員80名）
志願者数 289名

水戸一高入試倍率

1.64倍（定員240名）
志願者数 393名

入試結果と進路状況

主な大学の合格者数を以下に記す。（ ）内は現役合格者数。

○ 国立大学

北海道大	12（6）
東北大	28（19）
茨城大	15（8）
筑波大	38（30）
埼玉大	4（3）
千葉大	7（6）
東京大	15（11）
東京外語大	2（2）
東京学芸大	4（4）
東京工業大	2（1）
一橋大	4（3）
横浜国立大	2（1）
名古屋大	4（3）
京都大	7（5）
大阪大	7（3）
神戸大	4（3）
九州大	2（2）

○ 私立大学

青山学院大	21（15）
慶應義塾大	33（20）
上智大	11（7）
中央大	40（24）
東京理科大	104（52）
法政大	50（33）
明治大	82（47）
立教大	27（19）
早稲田大	56（26）

○ 医学部医学科

国公立	22（12）
私立	23（4）
準大学	3（3）

（令和5年4月3日現在）

令和4年度 生徒海外派遣プログラム

令和5年3月4日から3月17日の14日間、高校1年生40人がボストンとニューヨークにて研修に参加しました。コロナウイルス流行による渡航制限により平成31年度以来3年ぶりの実施であり、知道会から多大なご支援とご声援を頂いたことを感謝しております。

ニューヨークでは、グラウンド・ゼロにて9.11の犠牲となった人々を哀悼した後、現地の大学や日系コミュニティで活躍されている卒業生の倉林活夫氏(昭59卒)、船山和泉氏(昭60卒)、打越文弥氏(平21卒)、加納良雄氏(昭29卒)の講話を通して、世界で通用する人材となるための心構えを学びました。4人に共通する点は、強い信念を持ち、自分の意思で自らの運命を決める強さと周囲への感謝を持って行動する謙虚さでした。先輩方の熱い訓辞は彼らの心を大きく揺さぶるものとなりました。

翌日、コロンビア大学と国際連合本部を見学後、道中のハイウェイでバスが故障するというトラブルに見舞われながらもボストンへ無事に移動することができました。ボストンでは、マサチューセッツゼネラルホスピタル・ハーバードメディカルスクールにて日本人研究者による講演、ラボ見学を皮切りに、マサチューセッツ工科大学にてワークショップや

ミュージアム見学、スローン経営大学院の博士課程3年生による講義、ハーバード大学にて分子細胞生物学部の日本人研究員による講義、大自然史博物館の見学、それらに加えて、ハーバード-MITヘルスサイエンスアンドテクノロジーにてカーブ教授とカーブ研究室の研究員、大学院生の講義や生徒たちのプレゼンテーションなど、文系と理系の高度な内容を英語で理解するだけでなく、自らの意見を英語で表明することで大きな達成感を得ました。また、ハーバード大学のOB組織のひとつであるFOX CLUBでは会員のチャールズ氏より公に奉仕する真のエリートとしての矜持と覚悟を学びました。

この他にも、ボストン美術館や日本総領事館への訪問、ケンブリッジインフォメーションセンター見学、現地大学生と巡るボストン市内班別自由研修にて博物館や史跡を見学するなど、歴史、文化、外交、ビジネスの仕組みなど様々なことを学びました。ホームステイ先での交流や現地の公共交通機関を使って通う経験などを通して苦労したことは今後の糧となるでしょう。

最後に、海外派遣プログラムを引っ張ってきた代表生徒たちの感想を紹介します。

- ・アメリカでは率直に感情を伝えられることが多く

最初は面食らったが徐々に慣れ、日本のような気遣いを使うことなく思いのままにコミュニケーションをとることが出来た。

(副代表 11組 鈴木杏奈)

- ・アメリカに住む人々は新たなコミュニティに属するとする野心、そこに抱く愛を持っている。人生の豊かさにも繋がり得るこの美しさを、自分の中でも育てていこうと思った。(副代表 12組 石崎 覚)
- ・アメリカと日本の文化が大きく異なるのは聞いていたが、実際に身をもって体感したこと、アメリカにフランクで優しい人が多くいること、そして、日本が様々な面で優れていると気づくことができました。(副代表 15組 門島育磨)
- ・失敗からとことん前向きな姿勢を貫くといったアメリカの思想には感銘を受けました。その上で私達に求められるのは、自分に恥をかかせることができる真の挑戦です。自分の人生の選択枝をガラッと変えた海外派遣でした。

(代表 15組 田中千也)

(引率: 岡島岳暁、齋藤高史)



カーブ研究室のメンバーとの記念写真

第74回歩く会 4年ぶりの2日間開催



令和4年10月8日(土)・9日(日)、第74回「歩く会」が、4年ぶりの2日間で開催されました。常陸大宮市「大宮運動公園」

を出発し、中学生は中休止(ふれあいの森公園・23.5km)まで、高校生は学校までの40kmを団体歩行で歩き、学校に宿泊。2日目の自由歩行は那珂川沿いの約20kmで、朝6時過ぎに学校を出発。予定通り10時40分に最後尾の追い上げ隊のゴールで終了しました。ゴールでは水戸地区の地域知道会の連合組織「水戸知道会」の皆さんからご寄付いただいたスポーツドリンク

が配布されました。2日間のうちに何度も生徒さんから「出来て良かったです」という言葉を明るい笑顔とともに聞きました。奇跡的なほど天気に恵まれたことと、やはり夜も歩けた、「本物の」歩く会にようやく参加出来たことが余程嬉しかったのでしょう。高村校長以下の先生方、実行委員の皆さん、医療チーム「AMAT」の皆さん、お手伝いやご協力下さった奨学会・知道会の方々、沿道の地域知道会や地域住民の方々など、多くの方の力に支えられてこそ、この行事が成り立っていることを改めて実感しました。

第72期第49回代議員会

第72期（令和4年10月～令和5年9月）第49回代議員会が令和4年11月12日（土）知道会会員の集いにおいて開催されました。審議等概要は以下の通りです。

(1)第71期事業報告として委員会活動と事業、母校助成協力事業および学年・地域・職域知道会の活動状況が河野幹事長から報告され、了承されました。

- (2)第71期決算について出澤財務委員長から、監査結果について小野瀬監事から報告され、承認されました。
- (3)第72期の事業計画案が河野幹事長から説明され、原案通り承認されました。
- (4)第72期の予算案が出澤財務委員長から説明され、原案通り承認されました。
- (5)母校創立140周年記念事業における報告が河野幹事長より報告され、了承されました。
- (6)役員改選案が河野幹事長より報告され、承認されました。

第71期 収支決算書

自令和3年10月1日
至令和4年9月30日

（単位：円）

収 入 の 部				
科 目	予算額	決算額	決算額-予算額	備 考
年会費	7,500,000	8,148,000	648,000	4,074件
卒業生入会金	1,600,000	1,595,000	△ 5,000	新卒319名
寄付金収入	500,000	49,700	△ 450,300	
会員の集い収入	0	0	0	
オリジナルグッズ販売収入	600,000	147,050	△ 452,950	冊子・ネクタイ・団扇等
受取利息	200	39	△ 161	
特別積立金取崩	0	0	0	
140周年会計から繰入	2,000,000	1,220,000	△ 780,000	海外派遣補助金及び大会補助金
会報100号広告収入	0	580,000	580,000	会報100号広告収入
雑収入	50,000	14,410	△ 35,590	宛名ラベル等
当期収入合計	(12,250,200)	(11,754,199)	(△ 496,001)	
前期繰越金	(5,690,722)	(5,690,722)	(0)	
収入の部合計	(17,940,922)	(17,444,921)	(△ 496,001)	

支 出 の 部				
科 目	予算額	決算額	決算額-予算額	備 考
運営費	(11,500,000)	(10,481,471)	(△ 1,018,529)	
会員の集い費	600,000	414,099	△ 185,901	R3集い・R4実行委員会①～④軽食
会議費	100,000	13,855	△ 86,145	会議用お茶
事務局運営費	1,300,000	960,600	△ 339,400	事務局人件費・ネットワーク維持費等
通信費	3,400,000	3,254,148	△ 145,852	会報発送・電話その他通信費
消耗品費	150,000	8,668	△ 141,332	
旅費交通費	200,000	25,000	△ 175,000	
渉外費	100,000	0	△ 100,000	慶弔費・饗別・御礼等
支部強化費	400,000	70,000	△ 330,000	各地域知道会総会の祝い金
振替手数料	850,000	652,776	△ 197,224	年会費等振替手数料
印刷費	4,200,000	4,910,461	710,461	会報・振替用紙等印刷費 ※1
リース料	200,000	171,864	△ 28,136	
事業費	(600,000)	(274,495)	(△ 325,505)	
総務委員会費	20,000	0	△ 20,000	
財務委員会費	20,000	0	△ 20,000	
広報委員会費	100,000	33,935	△ 66,065	会報編集会議 軽食
名簿委員会費	10,000	0	△ 10,000	
親睦委員会費	150,000	0	△ 150,000	
会費納入促進対策費	100,000	40,560	△ 59,440	自振キャンペーン：QUOカード
オリジナルグッズ製作費	0	0	0	今期は制作なし
野球部記念試合補助	200,000	200,000	0	令和3年11月28日 創部130周年記念試合補助
母校助成費	(3,350,000)	(2,278,025)	(△ 1,071,975)	
卒業記念品費	650,000	650,965	965	卒業証書フォルダー、マグカップ
大会補助金	800,000	651,040	△ 148,960	歩く会トランシーバー・応援団扇
卒業生褒賞費	400,000	256,020	△ 143,980	34名褒賞・賞状印刷
海外派遣助成費	1,500,000	720,000	△ 780,000	令和3年度代替研修（国内）
特別積立金繰入	(0)	(0)	(0)	
予備費	(2,490,922)	(0)	(△ 2,490,922)	
当期支出合計	(17,940,922)	(13,033,991)	(△ 4,906,931)	
次期繰越金	(0)	(4,410,930)	(4,410,930)	
支出の部合計	(17,940,922)	(17,444,921)	(△ 496,001)	

※1 会報100号記念別刷り

西日本水中一高会総会

去る令和4年12月3日（土）にオンライン総会を開催しました。関西・四国方面へのご出張の帰路に特別にお時間をとっていただいた高村校長、知道会の稲葉会長・河野幹事長のほか、水戸からは事務局の徳永様にご参加いただきました。心から感謝申し上げます。

総会では、事業報告と事業計画、決算報告と予算案の議題が提出され、いずれも承認されました。長引くコロナ禍のため、2022年も前年に引き続きオンラインでの活動が中心で苦勞しましたが、今後の企画運営に役立つと考えています。

今回は、特別企画として、関西大学教授の宇都宮浄人さん（昭54卒）によるミニ講演「これからの交通まちづくりー地方都市のQOLを高めるためにー」があり、地方再生について考える時間を持ちました。その後、参加者がそれぞれ近況報告を合せて楽しいひと時を過ごし、恒例の校歌斉唱で締めとしました。久しぶりに、会員の「きずな」と「思い」の大切さを再認識した次第です。

副会長 笹沼一弘（昭58卒）

東京知道会 4年ぶりにリアルで開催

令和5年2月25日（土）、大手町サンケイプラザにて東京知道会「同窓の集い」が4年ぶりにリアルで開催。平成6年卒が幹事学年となり参加者217名の盛会となりました。

令和2年2月22日予定「同窓の集い」が新型コロナ禍によりその直前2月17日に中止となってから、オンラインでの「総会のみ」・「総会と講演会」という変則的な開催が続き、漸くリアルでのフルスペック開催。

記念講演は「同窓生演奏会 シン・コントラバス」。平成6年卒の石川浩之さん（読売日本交響楽団コントラバス奏者）による生演奏とトークセッション。平成6年卒の横田はる美さんのバイオリンとの生演奏に、平成11年卒の植村沙織さんのピアノとの生演奏と、格調高い演奏と講演にとっても感動しました。

参加者の最高齢は昭和20年（1945

体育館改修完了

創立90周年に際して建てられてから50年余が経過した現在の水戸一高体育館。昨夏から行われていた長寿命化工事が終わり、3月28日に学校に引き渡されました。今回の改修で外観だけでなく、内部も床が張り替えられました。



年) 卒、最若手は平成24年(2012年) 卒と、卒年の差が67年。幅広い年代の同窓の皆さんが4年ぶりのフルスペック開催を楽しんでいました。

年代を超えた同窓生のネットワークが出来上がっていくことが同窓会の良さですね。石井健司(昭56卒)



行餘學會総会

令和4年9月10日(土)、阿字ヶ浦クラブに於いて3年振りとなる行餘學會総会が行われました。知道会幹事長の河野秀幸氏(昭63卒)をお招きして一高の近況を伺い、その後、乾年秀氏(平13卒)の「筑波記念病院でのCOVID19対応」というテーマで講演会が行われました。コロナという得体の知れない感染症が現れた頃からの病院の対応を、プロジェクターを使って丁寧にお話されました。質疑応答も交えてとてもタイムリーな内容でした。

懇親会では若い順にそれぞれの近況報告。昔行餘學會の恒例行事であった「試胆会」なる肝試しの話も飛び出し(毎回出るんですが…)、やはり会って話をするのはいいことだなあと感じました。



昔はこの那珂湊地区から多くの一高生が誕生したらしいので、まだ一度も総会に参加したことのない方、是非来年は顔を出してほしいと思います。

森田真理子(昭56卒)

地域・職域知道会連絡会議を開催しました

令和4年12月17日(土)14時から、知道会館において「地域・職域知道会連絡会議」を開催しました。稲葉会長・後藤副会長・河野幹事長・事務局と、県内の地域職域知道会の代表からオンラインを含めて16名が出席し、新型コロナウイルス感染症の影響により総会などの開催が2～3年間見送られた中での現在の状況や、今後の活動継続にあたっての課題の共有、本部に対する要望事項などについて意見を伺いました。

各地域職域知道会については知道会ホームページ→「知道会の紹介」→「概要・組織図」のページに掲載があります。各地域にお住まいで参加を希望される方は、それぞれへの連絡方法については事務局にお問合せください。

香川県立高松高等学校・玉翠会を訪問

令和4年12月3日(土)、高村校長と知道会稲葉会長・河野幹事長が香川県立高松高等学校を訪問し、同校の同窓会組織「玉翠会」と交流を行いました。

高松高校は旧制高松中学校と高松高等女学校を前身とし創立130年を迎える伝統校で、卒業生は5万4千名にも上ります。玉翠会はその同窓会組織で、会員の親睦と母校への支援の活動を行っています。

水戸と高松は徳川光圀公の時代からの縁もあり、また同校は水戸一高御厩新校長の出身校でもあることなどから、同窓会同士の情報交換を主とした交流をスタートするため、このたび関西方面への出張に合わせて訪問しました。

土曜の朝にも関わらず、高松高校からは中筋功雄校長、玉翠会からは間島賢治会長、佐藤哲也副会長と事務局の4名の方々がご対応下さり、両校ならびに同窓会組織の紹介、運営の状況や課題などについて約1時間半にわたって懇談しました。

今回の訪問をきっかけに今後も交流を続け、互いに提供する情報を両会の発展のために活かして参りたいと思います。

訪問の申し出をお受け下さいました高松高校玉翠会の皆様に御礼を申し上げます。



年会費の納入に、スマホ決済もできるようになりました

コンビニエンスストアでの払込票に、スマホ決済用のバーコードが追加されました。PayPay、LINE Pay、au PAY、PayB を利用している方は、アプリを起動し、払込票下部のバーコードを読み込み、ご自宅ですべてコンビニ支払を完了することができます。

なお、現金でゆうちょ銀行の払込票をお使いの方は、通常の手数料の他に110円の手数料がかかるようになりました(2022年1月より)。

預金口座振替もできます。現在、「口座振替キャンペーン」として9月30日までに口座振替の手続きをして頂いた方を対象に、クオ・カード(1,000円)を進呈しております。

詳しくは事務局(029-226-3960月・水・金)にお問い合わせください。



総務委員会

令和5年知道会会員の集い実行委員会をスタートします。本年の会員の集い幹事学年は平成4年、平成14年、平成24年卒の方々となっております。コロナ禍の状況も落ち着く中、昨年に引き続き懇親会の実施を予定しており、また以前のようにたくさんの会員の方に参加していただくことを想定して活気ある会員の集いが開催できるよう、幹事学年の皆様と総務委員の力を集結し5月から月一回のペースで実行委員会を開催していく予定です。企画詳細につきましては、今後決まり次第、随時知道会ホームページに掲載しますので、ぜひご覧ください。

総務委員会は今後、知道会会員の集いの実行委員会開催のほか、各地域職域知道会や、各委員会と連携を図りながら活動して参ります。

親睦委員会

令和元年からコロナ感染拡大のため、親睦ゴルフを除き、活動休止状態でした。

しかし、令和5年3月13日からマスク着用も個人の自由選択となり、少しずつですが、日常を取り戻しつつあります。

令和5年度においては、委員会の開催を行い、知道会の委員会同士の横のつながりを深める親睦活動を皮切りに行動してまいります。ご理解とご協力をお願いします。

財務委員会

知道会年会費で母校支援！

知道会の年会費は、本会の運営費のみならず母校支援にも使われております。皆様の年会費が後輩の学校生活の一助になる、素敵なことですね。母校支援のためお忘れなく年会費の払込みをお願い致します。

年会費の払込みには従来の郵便振替、銀行振込、自動引落とし、コンビニ払いに加えて、スマホ決済もご利用頂けるようになります。益々便利になっております。スマホ決済は、会費の払込取扱票（郵便振替用紙）の通信欄に記載のバーコードを決済アプリで読み込むことでお支払いを進めて頂けます。払込取扱票が付いている会報が届いている方は是非一度お試しください。

自動引落としも引き続き絶賛受付中です。次年度から自動振替をご希望の方は、今年度分の年会費払込みの際に払込用紙の通信欄に「自動振替希望」とご記入頂くか、お電話にて事務局（TEL 029-226-3960）にご連絡下さい。

財務委員会では、払込み方法の多様化を含めて更なる利便性向上の検討を進めて参ります。

名簿委員会

会員名簿7月下旬発行

名簿委員会では、名簿の記載内容につき常に最新で正確な情報の把握に努めるべく、事務局の皆様、名簿作成のサート様のご協力をいただき、メンテナンスを行ってまいりました。また、令和5年版会員名簿発行についての作業を行い、令和5年7月下旬発行の運びとなりましたことをご報告いたします。前回同様ソフトでカバーのない表紙となっております。また、昨年この場でご報告した通り、電話番号については調

査のみ行い、名簿への掲載は差し控えました。この点につきましては、前回の名簿発行からの課題であり、昨今の特殊詐欺事件の増加に鑑み、個人情報の保護と会員名簿の有用性の兼ね合いを図るべく検討を行った結果です。大きな変更点であり、会員の皆様にはご不便をおかけすることもあるかと存じますが、名簿の適正利用とともにどうぞご理解いただきたくよろしくお願い致します。

広報委員会

知道会報は、令和5年度よりweb発行併用となりました。今号102号より、紙での発行は秋の年1回となり、偶数号（春発行）はweb、奇数号（秋発行）は、印刷にて全会員の皆様に郵送いたします。web版の会報はカラー掲載です。知道会HPよりご確認ください。なお、昭39卒以前の会員の皆様には、従来通り、春・秋の年2回郵送いたします。母校と知道会、そして会員の皆様同士を繋ぐツールとして、幅広く情報を掲載して参ります。

第72期 知道会幹事会及び委員会名簿

顧問	後藤卓三（S19）、角田芳夫（S28）、鬼澤邦夫（S38）、☆御蔵祐司（校長）
会長	稲葉節生（S38）
副会長	井内義興（S33）、後藤克己（S43）、江幡秀則（S47）、栗原英則（S48）、伊藤道子（S53）
幹事長	河野秀幸（S63）
副幹事長	飯塚博之（S56）、鹿志村茂（H5）
総務委員会	*◎齋藤修（H6）、☆*◎富澤英士（H1）、*◎坪井正幸（H5）、黒木雅宏（S58）、橋本慎（S58）、竹村広治（H3）、加瀬昭宏（H5）、佐藤蘭弥（H8）、星野博史（H11）、住谷直樹（H14）、矢板淳一（H16）、北澤佑子（H17）、山村美樹（H19）、☆藤枝咲絵（H23）
財務委員会	*◎出澤琢磨（H1）、*◎仲田留美（S63）、*◎坂本正弘（H1）、太田聖史（S58）、猪野嘉彦（H2）、坪崎さき（H3）、浦田裕士（H7）、稲野知穂（H19）
名簿委員会	*◎加賀美理帆（S59）、*◎後藤直樹（S54）、*◎野村貴広（H7）、須能浩信（S60）、岡村太郎（H7）、岡村有希子（H7）、渡邊優美（H15）
広報委員会	*◎磯美保（S60）、☆*◎森田真理子（S56）、*◎和知忠道（H11）、内藤学（S53）、後藤岳志（S54）、平井夏樹（S56）、☆栗田真人（S57）、平山桂己（S59）、小林典子（H6）、田中亮（H9）、中原清人（H9）、平戸正英（H13）
親睦委員会	*◎加藤尚弘（H6）、*◎磯崎雄司（H1）、*◎海老根武（H2）、橋川栄作（S56）、君和田利智（S57）、小澤一利（S58）、高林憲一（S58）、黒澤広忠（S58）、高橋淳子（S58）、原口哲也（S60）、田部田英智（H6）、堀野辺直（H6）、藤田奈津子（H13）、三村玲緒（H19）、加藤祐介（H19）
幹事	☆*小田木健司（S59）、☆*池元和典（S57）、☆*長島ゆみ子（S63）、*横山歩（S61）、☆*細谷幸永（H17）、☆*小澤光浩（S57）
監事	小野瀬益夫（S51）、安智範（S60）
事務局	☆石川格（S50）、徳永美佳（S59）

（ ）卒業年次、*幹事、◎委員長、○副委員長、☆新任 2023.4.12現在

物故者情報につきましては、本年、会員名簿発行のため、現在情報収集中です。次号会報103号にて、R4.9～R5.8までにご連絡いただいた方を掲載いたします。

ホームページから登録内容の変更手続きができます！

◎会員情報変更フォーム <https://chidokai.jp/desk/r-form/>

その他お問い合わせ chidokai_mito@chidokai.jp

事務局 月・水・金（祝祭日を除く）10:00～15:00

来局の際は、事前にご連絡をお願い致します。



学校基本データ

学校創立 1878年（明治11年）10月2日

令和5年 創立145年

同窓会員数 39,061名

住所判明者数 21,800名

在籍生徒数 高校 767名（男子462名 女子305名）

中学 240名（男子120名 女子120名）

（令和5年4月現在）